

## QUARTER REPORT

第122期

## 中間報告書

2022年12月1日 ▶ 2023年5月31日

## 株主の皆さまへ

ファインケミカルの無限の可能性に向けて、  
今後も研究開発活動に力を注いでまいります。

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社第122期上半期（2022年12月1日から2023年5月31日まで）が終了いたしましたので、この間の事業概況をご報告申し上げます。

当中間期における当社グループを取り巻く事業環境は、地域ごとに差はあるものの、世界経済は総じて緩やかな景気回復が見られました。一方、ロシアによるウクライナ侵攻が継続し、資源価格、エネルギー価格の高騰、インフレ圧力が続いています。

米国では、景気回復が堅調に推移していましたが、インフレ抑制のための急激な金融引き締め政策は、一部の銀行の経営破綻や金融不安を招きました。

中国においては、輸出や不動産業の低迷はあるものの、内需主導で個人消費を中心に緩やかな回復傾向が見られます。しかしながら、中国や東南アジアの景気回復の勢いは力強さに欠ける状況です。

日本経済も、個人消費、輸出を中心に緩やかな回復基調が続く中、エネルギー価格及び原材料価格の高騰は継続しており、物価上昇は、個人消費の悪化をもたらす景気の下振れへの懸念となりました。

当社グループに関係の深い自動車産業においては、世界的な半導体不足、部品供給の制約が緩和し国内自動車生産台数は前年を上回る状況となりました。

このような環境の中、当社グループは2022年を起点とする中期経営計画（第121期「2022」から第125期「2026」まで）をスタートし、企業価値向上に向け、その中で設定した目標の実現、これまで培ってきた当社が得意とする合成技術を活用し、受託合成品の拡大、品質・技術に優位性を持つ医療用ゴム用途製品、医療用途



代表取締役社長

山田 秀行

脱水縮合剤、電子材料用途製品の製造販売に注力、成長分野での市場拡大を積極的に進めました。

一方、生産においては採算性を重視しより一層の経営資源の効率化とコストダウンを全社規模で取り組みました。

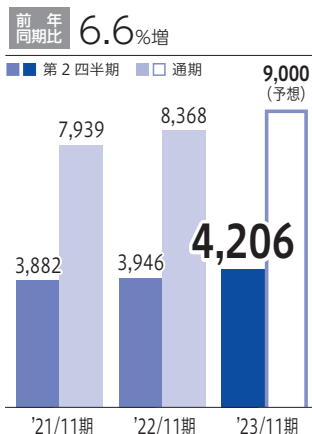
また、原材料価格、エネルギーコスト及び物流費高騰が続く中、コスト上昇に応じた製品への価格転嫁を総力を挙げて推進致しました。

ゴム薬品の販売は、自動車関連を中心に国内外の顧客における在庫調整と、中国市場の低迷の影響を受け、販売数量は前年同期を下回りましたが、価格改定の効果もあり、売上は前年同期を上回りました。中間体、その他薬品については、売上は前年同期を上回りましたが、樹脂薬品については売上は前年同期を下回りました。

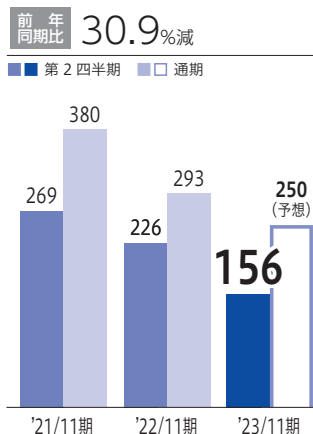
これらの結果、当中間期の売上高は42億6百万円（前年同期比6.6%増）、営業利益1億56百万円（前年同期比30.9%減）、経常利益は1億56百万円（前年同期比33.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億200百万円（前年同期比32.6%減）となりました。

## 連結財務データ

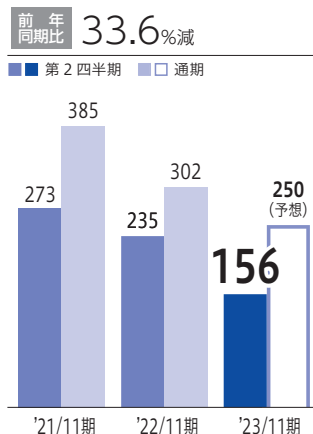
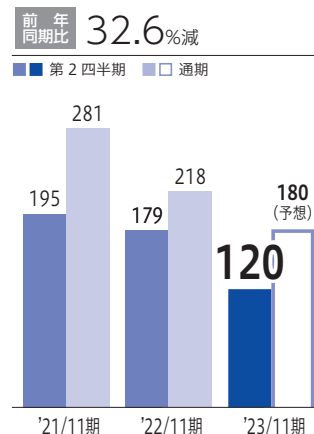
## 売上高 (百万円)



## 営業利益 (百万円)



## 経常利益 (百万円)

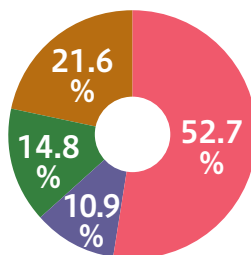
親会社株主に帰属する四半期  
(当期) 純利益 (百万円)

## 部門別の状況紹介

### 部門別売上高構成比

- ゴム薬品
- 樹脂薬品
- 中間体
- その他

(不動産賃貸事業部門 0.5% 19百万円含む)



企業価値向上に向け、その中で設定した目標の実現、これまで培ってきた当社が得意とする合成技術を活用し、受託合成品の拡大、品質・技術に優位性を持つ医療用ゴム用途製品、医療用途脱水縮合剤、電子材料用途製品の製造販売に注力、成長分野での市場拡大を積極的に進めました。

## 化学工業薬品事業部門

### ゴム薬品

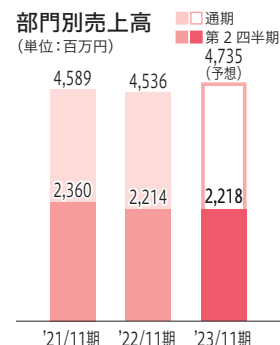
#### ◎売上高22億18百万円（前年同期比0.2%増）

##### ▶事業の紹介

タイヤやケーブルなど人々のライフラインを支えるゴム薬品、さらには、ヘルスケアに欠かす事が出来ない医療用ゴム製品への添加剤の提供を通じ人々の豊かな生活を守っています。

##### ○当中間期のポイント

- ・ゴム薬品全体では、半導体不足が緩和され自動車生産が回復基調となりつつも、関連製品の在庫過多による顧客での生産調整を受け全体の売上は減少。
- ・タイヤ向け製品は、主力製品の販売数量増加、原料エネルギーコスト、上昇分の製品価格への転嫁により売上増加。



### 樹脂薬品

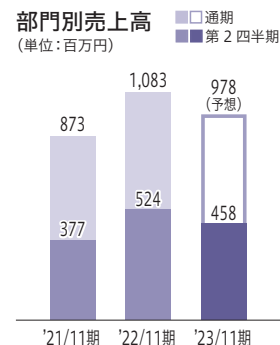
#### ◎売上高4億58百万円（前年同期比12.7%減）

##### ▶事業の紹介

世の中は省エネルギーに向けて進んでいる中、環境に配慮した高機能樹脂に置き換わりつつあり、そこに当社グループの樹脂薬品が使われています。また、当社が得意とする技術を生かし、ディスプレイなど成長著しい電子材料の添加剤を提供し、社会に貢献しております。

##### ○当中間期のポイント

- ・主要顧客であるアクリル酸・アクリル酸エステルの需要が低迷。



### 中間体

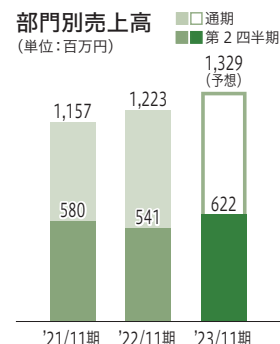
#### ◎売上高6億22百万円（前年同期比15.0%増）

##### ▶事業の紹介

農業や医療で必要とされる原料の提供を通じて人々の豊かな生活を支えています。

##### ○当中間期のポイント

- ・中間体は、全体的に売上が増加し、特に医療用途脱水縮合剤が好調に推移、界面活性剤中間体は顧客の需要回復に対応。
- ・染料向けは、主要製品の旺盛な需要に対応し売上増加。



### その他

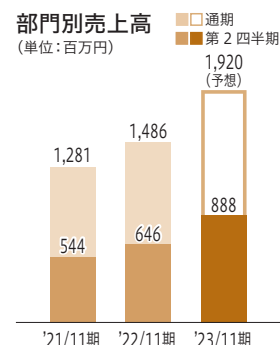
#### ◎売上高8億88百万円（前年同期比37.4%増）

##### ▶事業の紹介

環境用薬剤は家庭や企業などから出るゴミを焼却する際に発生する鉛や水銀を安全に捕集し、環境を守るお手伝いをしています。

##### ○当中間期のポイント

- ・レンズ用途向け特殊添加剤は需要増に迅速に対応し販売増加。
- ・電子材料向けにおいては、当社が得意とする合成技術を基盤とする製品の販売に注力。



## 財務データ

### 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 連結会計期間	前連結 会計年度
	2023年5月31日	2022年11月30日
<b>資産の部</b>		
流動資産	5,583	5,886
固定資産	2,387	2,435
資産合計	7,970	8,321
<b>負債の部</b>		
流動負債	4,445	4,422
固定負債	1,044	1,487
負債合計	5,490	5,910
<b>純資産の部</b>		
株主資本	2,406	2,346
その他の包括利益累計額	73	64
純資産合計	2,480	2,411
負債純資産合計	7,970	8,321

### 連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間
	自2022年12月1日 至2023年5月31日	自2021年12月1日 至2022年5月31日
売上高	4,206	3,946
売上原価	3,491	3,148
売上総利益	715	797
販売費及び一般管理費	559	571
営業利益	156	226
営業外収益	8	18
営業外費用	8	8
経常利益	156	235
特別利益	-	-
特別損失	1	1
税金等調整前四半期純利益	155	233
法人税、住民税及び事業税	26	50
法人税等調整額	7	3
四半期純利益	120	179
親会社株主に帰属する四半期純利益	120	179

### 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 自2022年12月1日至2023年5月31日	前第2四半期連結累計期間 自2021年12月1日至2022年5月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	223	△124
投資活動によるキャッシュ・フロー	△217	△120
財務活動によるキャッシュ・フロー	79	△104
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	13
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	88	△335
現金及び現金同等物の期首残高	910	1,319
現金及び現金同等物の四半期末残高	999	984

## TOPICS

### ゴムってなに？



ゴムは、伸びて縮んで元の形に戻る、弾性と柔軟性をもった高分子材料です。普段、皆さんが目にするタイヤやベルト、ホースなどは、このゴムの性質を上手に利用する事で世の中の生活を支える重要な役割を担っています。ゴムには様々な種類がありますが、ゴムの木から採れる「天然ゴム」と石油由来の材料から合成される「合成ゴム」に分ける事が出来ます。

天然ゴムはゴムの木の樹液を集めて精製したものです。天然ゴムはとても強度のあるゴム製品を造る事が出来ます。また天然由来の材料ですので、サステナブルな観点から注目を集めている材料でもあります。最近では乾燥地帯でも栽培が出来る「グアユール」という植物からもゴムを採る事が出来るようになりました。

一方、合成ゴムは化学工場でもノマーという石油由来の材料から化学合成されるゴムです。合成ゴムは天然ゴムでは得られない特徴を持つものが多く、例えば天然ゴムよりも良く弾むポリブタジエンゴム、100℃以上の温度に耐えられるエチレンプロピレンジエンゴム、潤滑油などの油に触れても劣化する事のないニトリルブタジエンゴム、空気やガスを閉じ込める事の出来るブチルゴムなど、他にも特徴のある合成ゴムが幾つもあります。

ところで冒頭で述べた、伸びて縮んで元の形に戻るゴムの性質は、「加硫」といったゴム分子とゴム分子を結合させる化学反応によって発現します。この加硫に用いられる加硫剤や加硫促進剤など、ゴム製品を造る上で重要な有機ゴム薬品を川口化学は社会に提供しています。

## 会社概要

設立 1937年1月11日  
資本金 6億1千万円  
従業員数 166名  
営業品目  
ゴム薬品 加硫促進剤、加硫剤、老化防止剤、加工助剤、  
しゃく解剤  
樹脂薬品 酸化防止剤、重合調整剤  
中間体 染顔料中間体、医薬・農薬中間体  
その他 機能性化学品、その他各種工業薬品  
事業所  
本社 〒101-0047  
東京都千代田区内神田二丁目8番4号(山田ビル)  
本社事務所 〒332-0004  
及び川口工場 埼玉県川口市領家四丁目6番42号  
大阪営業所 〒550-0001  
大阪府大阪市西区土佐堀一丁目3番7号  
(肥後橋シミズビル)  
主要な子会社  
開溪愛(上海) 〒200336  
貿易有限公司 上海市長寧区延安西路2201号  
上海国際貿易中心1712室

## 役員

代表取締役社長	山田 秀行
常務取締役	萱野 高志
取締役	安藤 博之
取締役	泉本 勝
取締役	本間 義隆
社外取締役(常勤監査等委員)	中村 一哉
社外取締役(監査等委員)	石上 尚弘
取締役(監査等委員)	中西 和俊

## 株式の状況

発行可能株式総数 4,000,000株  
発行済株式の総数 1,217,469株(自己株式2,531株を除く)  
株主数 1,723名

## 大株主

株主名	持株数	持株比率
山田化成株式会社	201,480株	16.6%
正喜商事株式会社	121,000株	9.9%
山田史郎	28,200株	2.3%
今川和明	25,600株	2.1%
株式会社SBI証券	25,312株	2.1%
三井化学株式会社	25,000株	2.1%
いずも産業株式会社	23,200株	1.9%
山田善大	20,650株	1.7%
両角義信	20,000株	1.6%
藤本博嗣	17,100株	1.4%

(注) 持株比率は自己株式(2,531株)を控除して算定しております。

## 株主メモ

事業年度 12月1日～翌年11月30日  
期末配当金受領株主  
確定日 11月30日  
定時株主総会 毎年2月  
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
特別口座管理機関  
電話 0120-232-711(通話料無料)  
同連絡先 郵送先 〒137-8081  
新東京郵便局私書箱第29号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
上場証券取引所 東京証券取引所  
電子公告により行う  
公告記載URL  
公告の方法 <https://www.kawachem.co.jp/>  
(ただし、電子公告による事が出来ない事故、その他やむを得ない事由が発生したときは、日本経済新聞に公告致します。)

(ご注意)  
株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱い出来ませんのでご注意ください。  
なお、未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行の本店でお支払致します。

## 当社ホームページのご案内



ホームページは  
こちら

<https://www.kawachem.co.jp/>

皆さまからのアクセスをお待ちしております!

 川口化学工業株式会社

〒101-0047 東京都千代田区内神田二丁目8番4号 山田ビル  
Tel 03-3254-8481(代表) Fax 03-3254-8497

UD  
FONT

VEGETABLE  
OIL INK

ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすい  
デザインの文字を採用しています。